

項目	観点	教科書名			
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について		新しい国語(2・東書)	中学校国語(11・学図)	現代の国語(15・三省堂)	伝え合う言葉 中学国語(17・教出)
	○国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるために、どのように配慮されているか。	・「読むこと」の領域の単元を中心として、小教材で全領域を扱っている。また、学習の手引きで交流活動を取り入れる工夫が見られる。 ・学習のポイントを、単元の導入(「学びの扉」)や、巻末(「学びを支える言葉の力」)に示すことで、基礎的な知識や技能を系統的に繰り返す構成になっていて工夫が見られる。 ・「書くこと」の領域では、様々な文章を書く教材が設定されている。様々な書き方の例文が具体的に示されている。 ・「話す・聞く」での交流活動では、具体例が示されたり、話合いの視覚化などの工夫した交流活動が示されたりしている。	・「読むこと」の領域の単元を多く設定し、計画的に交流活動を位置付けている。 ・学習過程における各活動のポイントを文例等を挙げ丁寧に説明し、主体的に活動できるよう工夫されている。 ・「書くこと」の領域では、図でわかりやすく説明したり、生徒作文を例示したりして、主体的に学習を進めることができるようになっている。 ・コミュニケーションコラムが系統立って位置付けられていて、「話す・聞く」が「書く」と関連して学習できるようにになっている。	・「読むこと」の領域の単元を多く設定しながら小教材で全領域を扱っている。 ・「学びの道しるべ」を通して、基礎的な知識や技能を繰り返して身に付けることができるよう工夫されている。 ・「書くこと」の領域では、学習の目的に応じて、複数の形態で話し合ったり、複数のコースから選んで創作したりする活動が設定されている。	・「読むこと」の領域の単元を中心に小教材で全領域を扱っている。 ・学習活動の重点や課題解決の道筋、話型等の例を図等を用いて具体的に示しており、それらを手がかりとして、見通しをもって学習できるように工夫されている。 ・巻末の「言葉の自習室」に、各領域の学習内容と手順、交流活動について段階的に示してある。
	○思考力や想像力及び言語感覚を養うために、どのように配慮されているか。	・言語教材が系統的に位置付けされている。 ・学習のてびきの中で読み取りの視点を示すとともに、学習のまとめとして書く活動を示している。 ・「読むこと」の領域では、説明的な文章での比べ読みを通して、生徒の多面的な考えを培う教材がある。また、年表や図、グラフや写真などを対応させながら読むことで、読解力や思考力を高めるよう配慮されている。 ・巻末には、「言葉を広げよう」で、まとめが掲載され、必要な語句を確認することができるよう配慮されている。	・「読むこと」の教材の前に、身に付けさせたい力に注目させるコラム「発見する読み」を設けることにより、思考力を高める工夫がされている。 ・単元の教材文で身に付けさせたい力を「言葉の力」「考える力」「知識や技能」として示してある。 ・説明的な文章では、身近な話題を取り上げ、思考力を高めるよう配慮されている。 ・「学びの窓」で、見通しをもって主体的に学習ができるよう配慮されている。	・「読むこと」の教材の後に「三角ロジック」「視点人物」等の読みを深める視点や方法を「読み方を学ぼう」として図解して示している。 ・説明的な文章では、図やグラフ、写真や地図を対応させながら読ませることで、思考力や読解力を高めるよう配慮されている。 ・巻末の「考える広場」で、思考力を高める課題が複数用意されている。	・説明的な文章は図やグラフを使い自然や環境、科学などについて述べられたものが多く、これからの生き方やものの見方について考えられるように配慮されている。 ・「読むこと」の教材の後に、それぞれの教材文の特性に即した読みの深め方を「ここが大事」というコラムで示すことで、思考力を高めるよう配慮されている。 ・巻末の「学びのチャレンジ」で、思考力を高める課題が用意されている。
	○国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てるために、どのように配慮されているか。	・古典の導入は身近な話題であったり写真が多く掲載されていたり、様々なジャンルの作品が取り上げられ、伝統的な言語文化に親しむことができる。下段の現代語訳や作品解説が丁寧であり、考えを深めるための配慮がなされている。 ・学期末に読書案内があり、各学年60冊程度が紹介されている他に、各教材の末尾に関連図書が2冊程度紹介されており、読書活動を促すことができるよう配慮されている。 ・単元の扉には写真とともに詩歌が掲載されており、意欲を高めることができるよう配慮されている。	・古典では様々なジャンルの作品が取り上げられ、多くの作品に触れられるようになっている。語注は原文の脇に青文字で掲載され、また、巻末には「注したい古語」が古語辞典的に掲載されていて、自力で読みとるための配慮がなされている。 ・巻末に10冊程度の読書案内があり、各教材の末尾に関連図書が2冊程度紹介されており、読書活動を促すことができるよう配慮されている。 ・単元の扉には詩が掲載されており、意欲を高めることができるよう配慮されている。	・古典は様々なジャンルの作品が掲載されており、多くの作品に触れられるようになっている。現代語訳は下段に掲載され、注釈も充実していて、自力で読みとるための配慮がなされている。 ・落語や歌舞伎、狂言などの作品の音読を通して、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるよう配慮されている。 ・巻末に50冊程度の読書案内があり、各教材の末尾に関連図書が3冊程度紹介されており、読書活動を促すことができるよう配慮されている。	・古典は様々なジャンルの作品が掲載されており、多くの作品に触れられるようになっている。現代語訳は下段にあり、また注釈も丁寧で、考えを深めるための配慮がなされている。 ・各教材の末尾に関連図書が3冊程度紹介されており、読書活動を促すことができるよう配慮されている。 ・「四季のたより」のページで、四季おりおりの詩歌が掲載されおり、意欲を高めることができるよう配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○社会生活に必要とされる言語能力を確実に育成するために、どのような工夫が見られるか。	・「学びを支える言葉の力」のページで、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域に共通して必要となる基礎的な知識・技能を身に付けることができるよう工夫されている。 ・文法については巻末にまとめられているだけでなく、練習問題も付随しており、基礎の定着を図ることができるよう工夫されている。 ・「学習用語一覧」「言葉を広げよう」で、言葉の意味をとらえて活用するための工夫が見られる。	・「活動を考える」のページで、既習事項を想起して学習の見通しをもてるような教材を示すことで、基礎・基本の定着を図ろうとする工夫が見られる。 ・教材の末尾に「ついた力をたしかめよう」のページがあり、身に付いた力を自分で確認することができるよう工夫されている。 ・巻末に各学年で学ぶ文法や語句・語彙、注意すべき筆順や古典文法について簡潔にまとめられ、学んだことを確認し基礎・基本の定着を図ることができるよう工夫されている。	・「読み方を学ぼう」により読むための手立てを図解で示すとともに、「リーフレット作成」等の言語活動を設定することで確実に言語能力を育成しようとする工夫が見られる。 ・単元末に漢字の練習問題が掲載され、単元で身に付けた漢字が確認できるよう工夫されている。 ・参考資料として「学習用語辞典」が掲載され、言葉の意味をとらえて活用するための工夫が見られる。	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」において言語活動を示す際に「学びの重点」として提示することにより、言語能力を確実に育成しようとする工夫が見られる。 ・巻末に練習問題が掲載されており、学習や生活に生かせる言葉を身に付ける工夫が見られる。 ・古典はコラムが充実しており、基礎的な知識の習得ができるよう工夫されている。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○主体的に学習する力を育てる教材の取扱い方について、どのような工夫が見られるか。	・各学年の巻頭折り込みに、国語学習の意義と進め方、一年間の見通しが、わかりやすく示されていて、意欲を高める工夫が見られる。 ・個性豊かなキャラクターとともに学習を進めていくスタイルや、ゲーム仕立ての文法学習を取り入れており、学習意欲を高める工夫が見られる。 ・古典の学習では、作品に紹介文や解説文を添えたり、絵巻などの資料を豊富に示し、視覚的に作品の世界観を味わえるよう配慮されていて、関心・意欲を高めて学習に臨めるような工夫が見られる。 ・主体的な学習活動ができるよう「てびき」に目標を示し「読み取る」「考えを深める」において具体的な視点を設けていて、進んで学習に臨めるような工夫が見られる。	・「学びの窓」(学習の手引き)が増やされ、導入→展開→終結の流れを「読む前に→読み深める→まとめ」として明示され学習の流れがわかりやすく、工夫されている。 ・展開部(読み深める)では、生徒が取り組みやすいよう活動がスモールステップになっており、進んで学習に臨めるような工夫が見られる。 ・古典の学習では、その作品と出合い、表現に大きく影響を及ぼし、現代とのつながりを示すことで、関心・意欲を高めて学習に臨めるような工夫が見られる。	・各単元の目標と関連した課題(小さな問い)を設定し、楽しみながら考えることから学習を始められるよう工夫されている。 ・「読むこと」の学習では、「学びの道しるべ」で個人で取り組む課題と、クラス全体で取り組む課題を提示し、さらに「学びを振り返る」でまとめができるように工夫されている。 ・古典では、歴史上の人物の和歌を紹介したコラムを掲載し、関心・意欲を高める工夫が見られる。	・「みちしるべ」の後には、教材の学習内容を整理するコラム「ここが大事」が設けられ、学習のポイントが解説してあることで、進んで学習に臨めるような工夫が見られる。 ・古典の学習では、地図や写真等複数の資料が古文と1ページで参照できるように工夫されている。 ・作品のテーマを教材名に掲げ、短い章段をつなぐ補助情報が豊富に提示されているので、進んで学習に臨める工夫が見られる。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○補充的学習や発展的な学習、課題選択学習等についての取扱い方にはどのような工夫が見られるか。	・基礎・基本を定着させる「学びを支える言葉の力」などの練習教材を単元ごとに提示することで、補充的・発展的な学習につながる工夫がされている。 ・日常生活・社会生活につながり、生徒が主体的・協働的に取り組める言語活動が用意されている。様々な読み比べをはじめ、生徒の思考と交流を促す活動が充実していて、発展的な学習につながる工夫がされている。	・読解活動と表現活動の連携が図られている。全りの表現教材の前に、「活動を考える」が示され、読解学習の成果を踏まえて表現活動へ導入する流れができており、発展的な学習につながる工夫がされている。 ・「読み深める」では、ワークシート形式の学習課題になっており、取り組みやすい工夫がなされている。	・巻末に資料「学ぶ力を高めよう」が用意されており、広範囲にわたる情報活用力を取り上げてあったり、様々な作品が掲載されてあったり、補充的な学習を促す工夫がなされている。 ・友情や防災への取り組みなど身近な課題が提示され、実生活に必要な力を育てるよう配慮されている。	・「読むこと」の教材末に設けられた「みちしるべ」で適宜「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連を示している。学習を理解から表現へと展開させることができるように配慮されている。 ・巻末に「学びのチャレンジ」という考える力や判断力、表現力を高めていく問題が設定されており、自分の力で挑戦させる発展的な学習につなげる工夫がされている。

項目	観点	教科書名				
3 構成・配列・分量		新しい国語(2・東書)	中学校国語(11・学図)	現代の国語(15・三省堂)	伝え合う言葉 中学国語(17・教出)	国語(38・光村)
	○単元構成及び教材の配列や各領域の学習系統性には、どのような特色があるか。	・各単元は「読むこと」の教材を中心にし、「言葉」の学習材を組み合わせて構成されている。 ・各領域とも3学年を通して系統性を持って学習目標が立てられている。 ・「読むこと」と表現活動が一連の言語活動となるように巻頭に学びのポイント「学習のすすめ方」を明示した単元構成になっている。	・各単元、3つの「読むこと」の教材を中心に「話す・聞く」「書く」「言語」の教材が組み合わされている。 ・「読むこと」と表現活動が一連の言語活動となるよう、教材末に学習の手引き「学びの窓」を配列した単元構成になっている。	・各単元は「読むこと」の教材を中心にし、「言葉」の学習材を組み合わせて構成されている。 ・「読み方」を身に付けられるよう、教材末の学習の手引き「学びの道しるべ」と巻末「読み方を学ぼう」を配列した単元構成である。	・各単元の「読むこと」の教材の後に必ず関連のある書籍が紹介されている。 ・年間を通して言語能力の育成が図れるよう、教材末に学習の手引き「みちしるべ」を配列した単元構成である。	・各単元の導入部に「読むこと」の教材が多い。 ・「話す・聞く」「書く」などのスキル教材も導入し、オリエンテーションしやすく配置されている。 ・言葉の力を日常・社会生活に生かせるように、教材末に「学習の窓」「次へつなげよう」などを明示した単元構成である。
4 表記・表現	○単元及び教材の関連性や分量には、どのような特色があるか。	・「読むこと」の教材の後に、表現の領域の教材を組み合わせて単元が構成されている。 ・「読むこと」を位置付けた教材をもとに他領域と関連させながら言語活動を展開させている。	・各単元、3つ「読むこと」の教材を中心にして、表現、言語事項等の教材を関連させている。 ・「読むこと」の教材を多く配置し、「読むこと」の能力を高めながら他領域の言語活動に生かせるようにしている。	・各単元、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化」を中心に、「言語」の教材を組み合わせて構成されている。 ・各領域の教材が均等に配置され、読み方のアドバイス「読み方を学ぼう」を一覧で示し、他学年や他領域での活用の仕方を示している。	・各領域を均等に組み合わせられて、学習が構成されるようになっている。 ・各領域の教材が均等に配置され、「読むこと」の教材末の学習の手引きの中に、各領域との関連を示している。	・単元ごとに「読む」教材を中心に「書く」「話す・聞く」「言語事項」(言葉)のバランスを考えて配置してある。 ・「読むこと」「書くこと」の教材が多く、教材末に「次へつなげよう」として、他教科や生活に生かす視点を示している。
5 体裁・使用上の便宜	○用語、記号等の表記や学年の発達の段階に即した文や文章の長さ、段落、文体、挿絵、写真、さらに図・表等の表現について、どのような工夫が見られるか。	・脚注に目標、新出漢字(音訓、用例)、新出音訓、語句(意味調べ・短文・類義語・対義語:色分け)、読書案内(関連図書の紹介:表紙写真)が掲載されていて、理解を促すための工夫が見られる。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」は常体で書かれており、「読むこと」は、常体・敬体の文章が掲載されている。	・脚注に脚間、語注、語句、漢字が掲載されており、新出漢字の音訓・用例は各教材末にまとめられている。各教材末には読書に広げるために(関連図書の紹介:表紙写真)があり、理解を促すための工夫が見られる。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」は敬体で書かれており、「読むこと」は常体で書かれた文章が多い。	・脚注に新出漢字、新出音訓、語句(意味調べ、短文、類義語、対義語)が掲載されており、新出漢字の音訓・用例は各教材末にまとめられていて、理解を促すための工夫が見られる。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」は敬体で書かれており、「読むこと」は、常体・敬体の文章が掲載されている。	・脚注に新出漢字、語句(意味調べ、短文、同音異義語、対義語、類義語)が掲載されており、新出漢字の音訓・用例、新出音訓、付表の語は各教材末にまとめられていて、理解を促すための工夫が見られる。 ・文学的な文章は常体が多く、説明的な文章は常体・敬体の文章が掲載されている。	・脚注に新出漢字、語句(意味調べ、短文、類義語、対義語、関連語句)、広がる読書(関連図書の紹介:表紙写真)が掲載されていて、理解を促すための工夫が見られる。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」は常体で書かれており、「読むこと」は常体の文章を中心に敬体の文章も掲載されている。
	○体裁や使用上の便宜については、印刷・製本や目次・注記等において、どのように配慮されているか。	・本文は明朝体、注記見出しはゴシック体、古典では古文のみ教科書体(現代文による解説等は明朝体)を使用している。(新出漢字も教科書体) ・目次の上部に領域ごとのアイコンが色分けして提示されており、本文でも統一されている。 ・領域ごとに色(「話すこと・聞くこと」青、「書くこと」緑、「読むこと」橙)が統一されている。	・本文は明朝体、注記見出しはゴシック体、古典の古文部分及び詩では教科書体(現代文による解説等は明朝体)を使用している。(新出漢字も教科書体) ・行の表示が(・・・5・・・)となっており、数えやすい。 ・目次では、小単元が色分けされており、本文も色が統一されている。	・本文は明朝体、注記見出しはゴシック体、古典の古文部分及び詩では教科書体(現代文による解説等は明朝体)を使用している。(新出漢字も教科書体) ・単元の扉にも目次(ページ数表示あり)が示されている。 ・学年ごとにテーマカラー(1年橙、2年緑、3年青)が設定されており、本文の色が統一されいている。	・本文は明朝体、注記見出しはゴシック体、古典の古文部分及び詩では教科書体(現代文による解説等は明朝体)を使用している。(新出漢字も教科書体) ・目次の上部に「話すこと・聞くこと」「書くこと」のアイコンが色分けして提示されており、本文も色が統一されている。 ・学年ごとにテーマカラー(1年緑、2年橙、3年青)が設定されており、本文の色が統一されいている。	・本文は明朝体、注記見出しはゴシック体、古典の古文部分は楷書体太字(現代文による解説等は明朝体)を使用している。(新出漢字、語句は教科書体) ・目次の上部に領域ごとのアイコンが色分けして提示されており、本文でも統一されている。 ・学年ごとにテーマカラー(1年緑、2年橙、3年青)が設定されており、本文の色が統一されいている。